

## 実践事例様式

校種 (学級・教室の種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	1年1名、2年1名、4年3名、6年4名の計9名が在籍。 「できない」「うまくいかない」状況への心理的負荷が大きく、不安が強いと表現が荒くなったり、ちょっとした友だちとの関わりでイライラが大きくなったりしてしまうことがある。	目標・指導内容	<b>【目標】</b> ・快、不快をどのような場面で感じるか、どのくらいの強さとして認識しているかを自己理解する。 ・友だちと共有することで、他者の感じ方に共感したり、他者のことを自分と異なる存在として理解し尊重したりすることができる。 <b>【関連する内容】</b> 2 心理的な安定(1)(2)(3)、 3 人間関係の形成(1)(2)(3)、 6 コミュニケーション(1)
指導の経過・工夫点・子どもの変容	<p><b>指導・支援の経過</b> 参考書籍：「特別支援教育×ロイロノート」(水内豊和 監修)</p> <p>1 自分だけの「心の中の説明書」作成のイメージを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快、不快にもどちらも、感情に強弱があることを伝える。</li> <li>・自分を振り返り、様々な感情の溜まり方を「自分の心のコップ」などの言葉を用いてイメージできるよう伝える。</li> <li>・3学期には、まとめの動画を作成することを伝える。</li> </ul> <p>2 感情ごとに「クラゲチャート」に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノート「クラゲチャート」に、選んだ感情について、どんな時にその感情になるのか、場面を書き出していくよう伝える。</li> </ul> <p>3 感情の強さを可視化する活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「気持ちの温度計」で可視化する活動を通して、自分にかかる負荷について直感的に示せるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="360 1339 1444 1635"> <p>「うれしい」 きもちは、どんなときかを想起させ、クラゲチャートにまとめる。</p> <p>「かなしい」 きもちは、どんなときかを想起させ、クラゲチャートにまとめる。</p> </div> <p>※著作権の関係で、ロイロノートの画面はセンター職員が Word で作成したものに 変更しています。</p> <div data-bbox="360 1814 611 2038"> <p>「気持ちの温度計2」 ※熊本市教育センター HP より</p> </div> <div data-bbox="1018 1646 1401 1809"> <p>その時の、感情の強さを「気持ちの温度計」で可視化する。</p> </div>		

出典：e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク)  
<http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/>

	<p>4 それぞれの場面を詳しく想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書きだしたそれぞれの場面について詳しい状況を想起するように促し、自分の感情についてより理解を深められるようにする。</li> </ul> <p>5 「提出箱」を示し、友だちと共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりに確認した上で、提出箱の回答共有をオンにする。他の児童と共有することで、共感し合ったり、相手への理解を深めたりする時間につなげる。</li> </ul> <p>児童の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み当初は、「うれしいときってどんなときなん？」「ぜんぜんわからん」というように、どんなときにその感情になるのか、困惑する児童が多かった。</li> <li>・「～のときってどんな気持ち？」や「最近〇〇のときに……の気持ちだったんじゃない？」など、聞き取りを行うことで、まとめることができるようになった。</li> <li>・感情を変えながら、取り組みを進めていく中で、徐々に自分の感情を理解し、クラゲチャートにまとめる時間も早くなった。</li> <li>・不快の感情の場面を想起する中で、自分はこのときに不快になるのかという、自己理解ができていく。</li> <li>・提出箱で共有する場面では、他の児童の快・不快の感情の場面を理解し、「自分もそうやわ～」と共感するような声があがった。</li> </ul>
成果と課題・ 今後の方向	<p><b>成果と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普段はわからない友だちの感情を視覚的に理解できたことで、互いを理解し寄り添う対応が見られた。</li> <li>○4・6年児童は、どんなときにその感情になるのかを1つでも理解することができたら、素早く取り組むことができた。また、その感情の場面や心理的負荷も様々で、共有をするときに、共感をしたり、自分にはなかった場面について、質問をしたりする様子も見られた。</li> <li>▲1・2年児童は、どんなときにその感情になるのかを表現することが難しかった。また、快の感情の場面と不快の感情の場面に出てくる場面がほとんど類似していた。</li> </ul> <p><b>今後の指導・支援</b></p> <p>6 解決策をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不快の感情について、自分がこれまでどのように対応してきたか、どう対応したいか、友だちからのアドバイスなども活かしながら、解決策について考えをまとめていく時間を設ける。</li> </ul> <p>7 プレゼンテーションを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成後、発表する時間を設定する。</li> </ul> <p><b>日常生活に生かせる手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の気持ちが落ち着かないときに、活動したことをもとに周りの人が対応することで、気持ちが落ち着くようにしていく。</li> <li>・他の児童がやっている「解決策」を真似して生活に取り入れるなど、児童同士が関わり合うよさを実感してもらうようにする。</li> </ul>